

あり、2004年にく図書館サポーター（愛称：図サポ）>が発足した。

コンセプトは「図書館を学生により身近なものにするために、学生による学生のための図書館広報宣伝活動をする事」これに賛同すれば、部活動でも委員会組織でもないため、自由参加。毎月2回昼休みに昼食を食べながら、所定の教室で会議を開く。図書館長直結組織なので、図書館長がまとめ役となるが、進行は学生が主体となり、サポーター長（これだけは代表者として決める）が次企画の方向を決め、それぞれの得意分野：イラストやポップ、書評等で役割分担をする。時期等は図書館と要相談となるが、最近では活動内容が定着してきたので、図書館側でも心得て楽しみにしている企画もある。

2007年には図書館HPに活動を公開しているので、詳しくはそれをご覧いただきたい。

#### その1：新聞発行とミニ企画展

2005年『図書館新聞』を発行。名称が“図書館の発行”と誤解されたので、学生から募集し、2006年『Tabula rasa』と改名。哲学の授業中に聞いた‘タブラ・ラサ’＝「白紙」。図書館で本を読むことによって心の白紙に色をつけ、さらに塗り替える場になればという図サポの想いがある。

発行は年3回。その時々で特集を組み、そこで紹介した図書は、館内カウンター前の図サポ専用書架で「ミニ企画展示～オススメ本～」を行う。選書・ポップ・配置も手作り。時には、専門性を持つためにゼミとタイアップしたり、教員にお願いしたりと様々なコラボで展開している。

2008年には留学生とのコラボで「図書館マップ」ハングル語版、中国語版を作り、英語版は現在作成中。下関という土地柄、アジア系の留学生が多いので、図書館利用オリエンテーションでは司書の力強い見方になっている。もちろん日本語版は、図書館利用の一般市民

.....  
 特集：学生<sup>パワー</sup>の力

### 梅光学院大学図書館サポーターについて 学生による学生のための図書館広報宣伝活動

永見 昌代

.....  
 図書館サポーター発足の経緯と内容

本館は、博物館と併設し、細長いキャンパスのほぼ中心に位置している。にもかかわらず利用率の低下が問題となり、延長開館、授業との連携、カウンターサービスの対応等々いろいろと方策を考えた。一時的に効果はあったものの、継続的ではなかった。そこで当時の館長から「学生に図書館を理解してもらうための学生の組織を作っては」という意見が

にも大好評である。

### その2：読書家大賞の制定

本学では目覚しい活動をした団体や個人に「梅光学院父母会課外活動奨励金」が授与される。図サポは、前述の新聞や図書館の広報活動への貢献が評価され、2007年に授与された。この奨学金で「読書家大賞」を運営し、さらに学生リクエスト本を「父母会寄贈本」として購入し、図サポ書架にポップ付で配架している。

「読書家大賞」は3種ある。「大賞」：図書館所蔵の本を読み専用用紙に応募した枚数と、大学生協主催の読書マラソン（これもコラボ！）への応募数を合計したもの。「ナイスコメント賞」：応募数に関係なく、図サポの心を捉えたコメントに贈る。「ナイスポップ賞」：図サポがいつも体験しているものを作ってもらおうという企画。これを見たら、本が読みたくなるポップに贈る。

6月春季宗教講演会で告知し、10月秋季宗教講演会で表彰する。本学はミッションスクールのためこれらは全学生が出席しなければならない。表彰式では、図サポ長から賞状と副賞（図書カードとグッズ）が授与される。図書カードは、大賞1万円、準大賞1等5000円、2等3000円、3等1,000円、ナイスコメント賞とナイスポップ賞3000円の各1名。グッズは、オリジナルしおりと今年からはブックカバー。

全学生の前で奨励金の使い道の説明を行い、表彰する方法は、学生が行う活動に学生が参加し、その評価も学生が行うことが好循環になっている。数字的にも、回を重ねるごとに応募が増え→図書館利用者数の増→貸出し冊数の増という良い結果につながっている。

また、生協とコラボすることで、第一回の受賞者は生協読書マラソンの「ナイスランナー賞」にも輝き、学生の大きな励みになった。

### その3：オリジナルキャラクター

2006年「ライブラリアン13世」誕生。これもまた哲学の授業中のノートの落書きから生まれた。愛称「らいちゃん」は、グッズにもなり、漫画研究部との合作でしおりとシールが作られ、オープンキャンパスで高校生に配布され、“癒し系”として好評である。

オープンキャンパスの図書館案内も活動の一つで、「らいちゃんポスター」は案内用として作られた。

図1

<このポスターが見えたら、そこが図書館>



昨年、参加した高校生が、今年は図サポとなり、オープンキャンパスで案内し、しおりを配ることを楽しみにしている。入学する要因の一つにもなり、入試の面接時に「図サポに興味がある」という学生がいたと聞いている。HPを見たという高校生もいて、ますます活気付いている。

### 学生の声とこれからの活動

この文章を書くにあたり、図サポに2つインタビューした。

#### ①参加した動機は？

- ・本や図書館が好きなので。
- ・本好きの友人に誘われて。
- ・図書館学課程を受講しているので、授業の参考になったり、就職対策もある。

#### ②今後の展開は？

- ・ブログを作りたい。
- ・学生と司書との交流の場を持ちたい。
- ・らいちゃんの進化系を作る。

いつも10名前後で活動している。学科も学年も違うが、それぞれのスタンスで企画・進行・運営している。教員や司書が手を掛けると手際がよくなりスピードは速くなるが、そこは何もせず、学生からのアクションをじっと待っている。学内での連携やコラボ企画の場合、依頼の手助けはするが、主体は学生である。発足から5年目となり、新聞も11号を迎える。“図サポ”という名前も学内でメジャーになってきた。学生も代替わりし、新サポーター長がどのような展開をするのか楽しみにしている。

詳しくは、梅光学院大学 HP ↓から図書館をクリックしてご覧いただきたい。

<http://www.baiko.ac.jp/>

(ながみ・まさよ／梅光学院大学図書館)